

## 小さな引越し

宇敷 辰男

一昨年の十一月、一人暮らしをしていた九十八歳の母が、介護や生活支援のあるサービス付き高齢者向け住宅に入居することになった。平成十一年に父が亡くなり、平成十四年から我家と徒歩十分位の距離にある二DK（五十八㎡）に住んでいた。サ高住はワンルーム（二十五㎡）で、食事提供が頼めるので、必要な家財はそれ程多くない。冷蔵庫は小型のものに買い替えることにし、介護ベッドはレンタル業者が設置するので、運ぶ荷物は・洗濯機・整理箆笥・ふとん・テレビ・机・椅子・物干し竿・ダンボール箱の衣類小物ぐらいである。

昭和時代の独身の小さな引越しは、仲間に頼んで借りた車で運んだものである。今や皆が年を取ってきたので、引越し業者を探すことにした。

小さな引越しの見積り比較サイトを検索してみた。荷物リスト、希望日を入力すると、後日引越し業者から連絡があるという受領メールが戻ってきた。すると間髪入れず二分以内に六社からメールが届いた。直後にその四社から電話が掛かってきた。

結局四日間で七社からメールがあり、七社は電話を掛けてきた。その結果、費用は大別して二万円台と四万円台が相場であることが分かった。見積りを比べてみると、積載量が一ト車で約六十部、二ト車で約三十部で、どの業者もトラックが大きい過ぎる。

昔、赤い目印の軽トラックの運送業者がいたことを思い出した。検索してみると昭和五十年発足という軽自動車運送の協同組合が見付かった。作業員一名が軽トラック一台積載量三百部で運んでくれる。そこで二台二名を頼んだ。

当日、我々より遥かに若い大柄で力持ちのお兄さんとベテランの男性が二台で到着。少し重い整理箆笥や洗濯機も軽々と積み込み、丁寧に運んで手際よく降ろし配置してくれた。小さな引越しが三万円弱で無事完了した。

次の小さな引越しがいつになるか分からないけれど、手軽な赤い目印のサイトには「単身の引越しから介護施設の入居まで」というキャッチフレーズが載っている。